



2023年12月期(第17期) 事業戦略説明

株式会社sMedio

(東証グロース : 3913)

2023年3月23日

- ◆ 本資料は、2023年3月23日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社（連結子会社を含む）の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込み、または予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- ◆ これらの将来の展望には、様々なリスクや不確実性が内在しています。既知、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと保証することはできず、実際の結果が将来の展望と著しく異なることもありえます。
- ◆ 本資料中の数値は、単位未満切捨てで表示しており、その影響で表中の合計と一致していない場合があります。
- ◆ 本資料中に記載されている会社名および製品・サービス名等は、各社の登録商標または商標であります。なお、一部、®、TMなどの記載を省略しております。
- ◆ iPad、iPhoneはApple Inc.の商標です。

デジタル・トランスフォーメーション(DX)を加速する。

ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる。
(Erik Stolterman, 2004, Information Technology and the Good Life)



パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業

大手家電/パソコン/スマートフォンメーカーに最新の映像(4K/8K)・音響再生ソフトウェアを提供。数千万台に搭載実績。

AIメイクアップアプリ「Umore」の提供開始、富士通PCで採用。



建設DXサービス事業

建設現場向けDXサービスを提供。画像情報から評価項目毎に判定するAI搭載アプリとデータを管理するクラウドサービスを併せて提供し、現場と遠隔地と情報をつなぐDX推進として業務効率化を支援。複数の建設会社にて採用実績。

「切羽AI評価システムサービス」のNETIS登録が完了。
自社DXサービスは、ゼネコン8社で採用。



セキュリティ & プライバシーソフトウェア事業

モバイル向けセキュリティ・バックアップ技術に、豊富な知識と実績。

スマートフォンバックアップサービス「sMedio Cloud Backup」の提供開始、2023年1月より顧客1社でのサービスイン。



IoTソリューション事業

IoT/SaaSソリューション提供のリーディングカンパニーのKiwi Technology Inc.と当社技術を組み合わせ、物流業界、小売・流通業界等向けにハードウェアとサービスを含めたワンストップIoTソリューションを提供。

2022年7月にKiwi Technology Inc.と資本業務提携を発表。



家電メーカー、パソコンメーカー、ゼネコンをはじめとした各業界の大手顧客との強いパートナーシップによって市場ニーズを的確に把握し、マルチプラットフォームに対応したワンストップ開発体制を構築しています。保有技術を活用した製品・サービスをいち早く市場に投入が可能です。

	パソコン デジタル家電	セキュリティ・ プライバシー	建設DX	IoT
モデル	B2(B2)C			B2B
技術力	4K/8K再生をはじめとした、映像再生技術、データ配信技術	スマホアプリの脆弱性診断技術 スマホデータの高速バックアップ技術	画像AI認識技術およびセンサー解析技術	LPWA (*1) を用いたIoT機器およびSaaSソリューション開発技術
実績	数千万台のライセンス提供	10年以上のサービス提供	大手ゼネコンへの採用実績	大手リテールをはじめ日本国内に導入数3万台以上
開発力	組込み、PC、スマホ、クラウド、IoTシステムのマルチプラットフォーム環境でのワンストップ開発体制			

*1 LPWAとは、低消費電力広域通信網のこと。

通期業績

01

- ロイヤリティ、開発、保守・サポートのいずれも増収となり、売上高は前期比104百万円増の827百万円。
- 原材料の評価減228百万円があり、最終損益は185百万円の赤字。原材料の評価減は一時的なものであり当該影響を除くと42百万円の最終黒字であった。

パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業

02

- VALutionBD(4K)は、主要顧客の製品生産・出荷がコロナおよび半導体不足起因により減少しておりましたが、下期においても回復しない状況が続いており、関連する原材料の評価減を実施。
- その他ライセンス製品はおおむね計画値を上回りロイヤリティ収入全体では、前期比59百万円の増加。

建設DXサービス事業

03

- 「切羽AI評価システムサービス」の国交省NETIS登録が完了。
- 自社DXサービスは、ゼネコン8社での採用、採用トンネル数 累積32本に到達。

セキュリティ・プライバシーソフトウェア事業

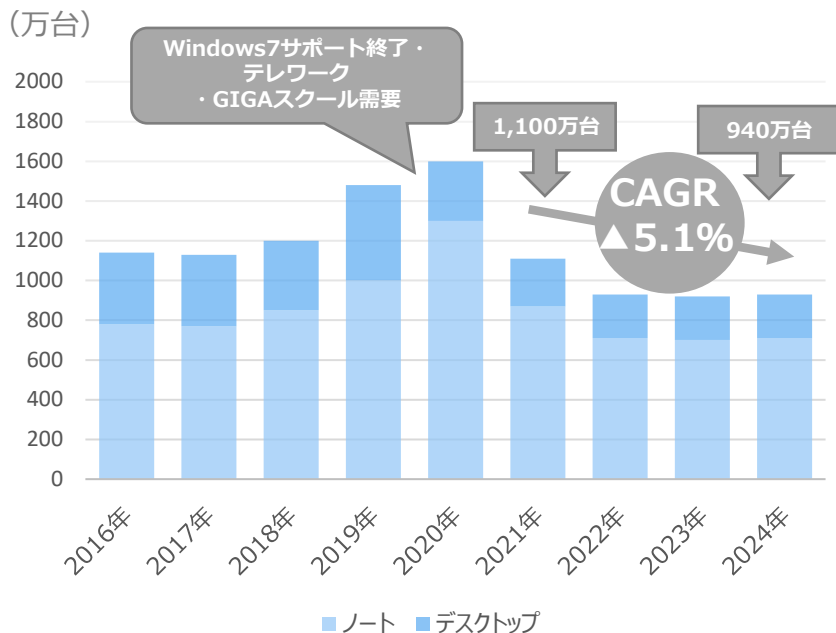
04

- 新規受託開発案件が開発収入に寄与。
- クラウド型スマートフォンバックアップサービス「sMedio Cloud Backup」の採用が決定、2023年1月からサービスイン開始。

PCおよびTVの市場動向は、それぞれ買い替えサイクル時期に入り、底堅くも緩やかな減少傾向が予想されます。そのため、さらなる機器あたりの当社ライセンス製品の搭載数の増加、次世代機器向けの新たな市場に向けて事業展開します。

国内PC市場動向（出荷台数） ※2021年以降は予測

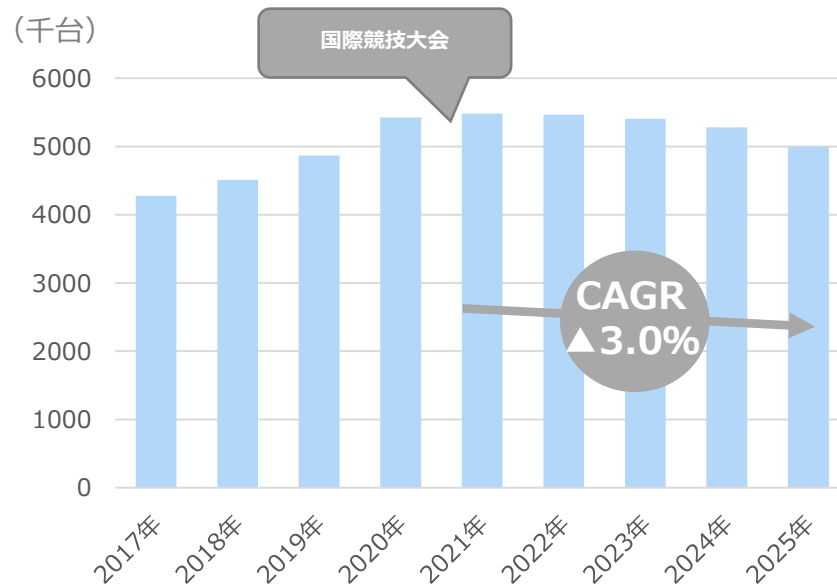
Windows 7のサポート終了やコロナ禍によるテレワーク需要、GIGAスクール需要が落ち着き買い替えサイクルに移行



参考：2022年2月9日掲載のPC市場もPCサーバー市場も底堅く成長している
<https://www.pc-webzine.com/entry/2022/02/pcpc-1.html>
 IDC JapanおよびMM総研の国内PC市場動向暦年ベースを元に当社にて作成

国内TV市場動向（出荷台数） ※2021年以降は予測

国際競技大会による4K/8KのTV需要が落ち着き買い替えサイクルに移行

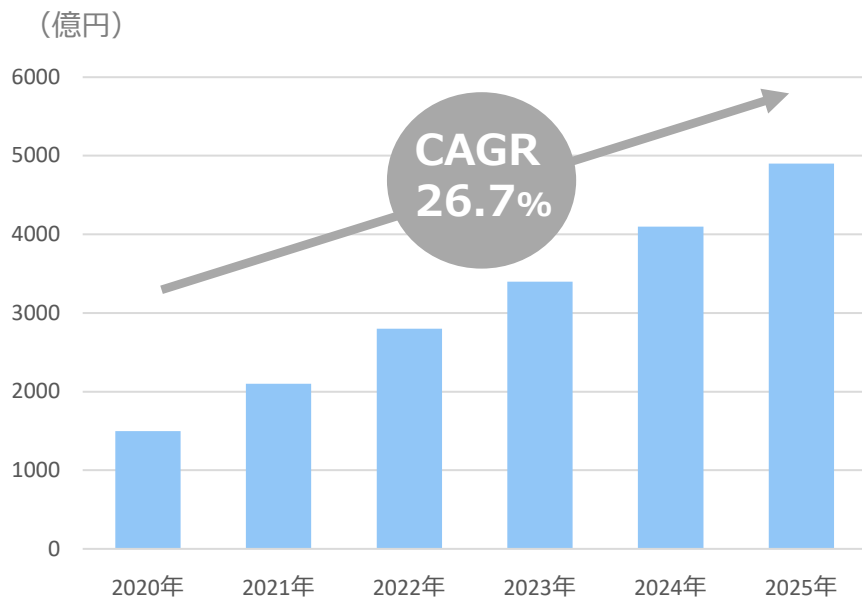


参考：JEITA「AV&IT機器の世界需要動向を公表.pdf」
<https://www.jeita.or.jp/japanese/topics/2022/0225.pdf>を元に当社にて作成

建設DX市場では労働者人口減少や労働規制(労働時間)も影響し、業務効率化が重要となっており、建設DX市場は今後も堅調に成長を続ける見通しです。当社が注力する画像・映像を活用にしたDX・AIサービス利用の需要が見込まれます。

国内AIシステム市場予測

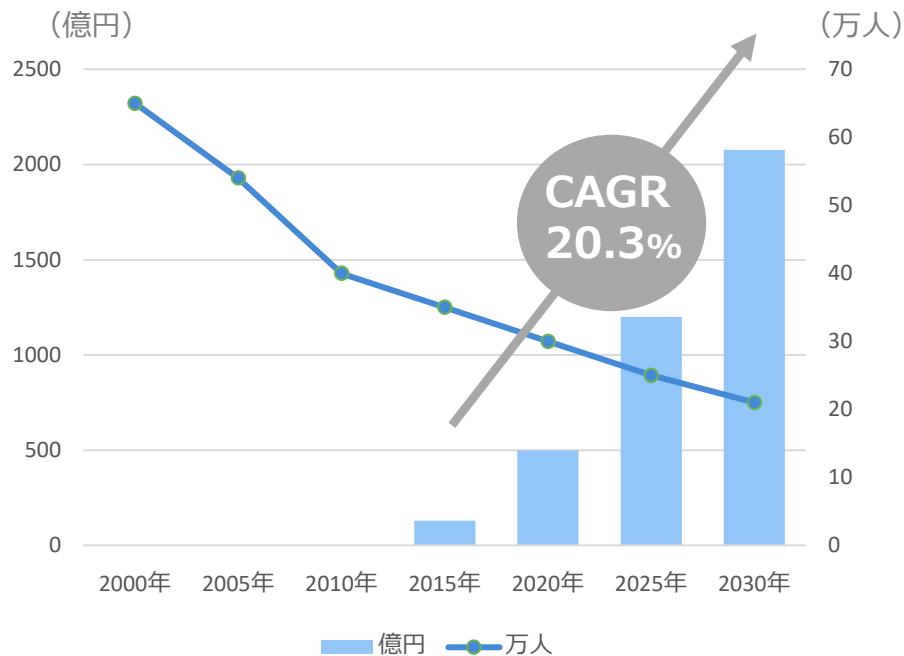
引き続き日本のAI需要は高まり今後も成長の見通しが予測されます



参考：2021年6月8日電波新聞「AIシステムが急拡大 IDC調査国内市場規模47%増、1579億円」
<https://dempa-digital.com/article/198746>を元に当社にて作成（出典元IDC Japan）

労働人口と建設DX市場動向予測

労働人口の減少を補うため、建設ではDXの推進が急務であり、今後は更に加速した成長の見通しが予測されます



参考：2021年2月4日リクナビ掲載DX推進でどう変化する？建設業界の仕事・働き方
https://next.rikunabi.com/journal/20210204_c01/
 出典：実績値は総務省「国勢調査」、予測値は野村総合研究所
 出典：出典：富士キメラ総研「2020 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」
 を元に当社にて作成

From Technology Licensing Company To DX Service Company

これまでTechnology Licensing Companyとして培った技術を活用、お客様の課題を「技術」と「サービス」で解決し、蓄積情報を活用して、更なる付加価値を提供するDX Service Companyになることを2025年の姿とします。

既存事業

保有技術のライセンス製品群



- ・他社と明確に差別化ができる独自技術ならびに製品
- ・顧客との強いパートナーシップによる技術・製品の展開

成長事業

クラウド×α DXサービス群



事業領域の拡大

建設DX

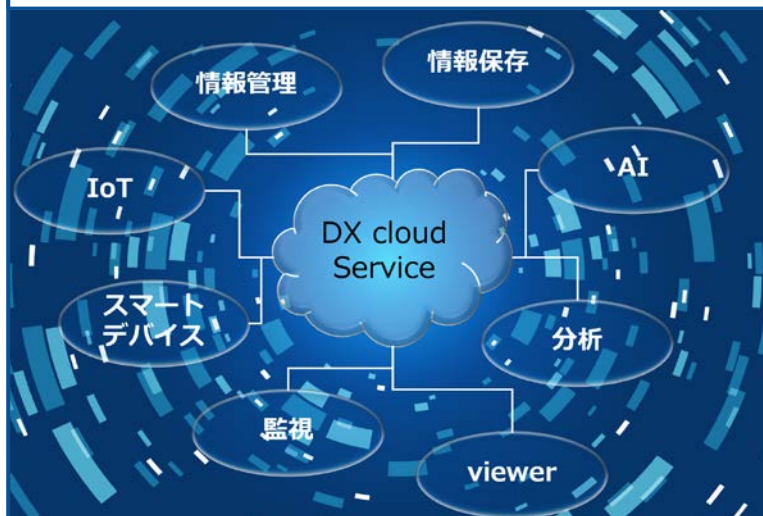
流通DX

物流DX

新製品の開発
+
市場の拡大

画像・映像処理AIを活用したサービスを軸に、IoT機器の活用や技術応用による横展開で特化した情報活用基盤としてのDXサービスを拡充していきます。サブスクリプション収入による収益の安定化を目指します。

DXサービス製品はSaaS(※1)型のサブスクリプションモデル



【業界特化】建設DXサービス

- 切羽AI評価システムサービス
- コンクリートAI評価サービス
- 動体認識AI解析サービス

【B2B2C特化】クラウドデータサービス

- sMedio Cloud Backup

【IoT特化】Kiwi Tech IoTクラウドサービス

- Kiwi Tech IoT機器を活用するSaaSアプリケーション
- センサー情報を活用した、レポート分析・AIシステム

(※1) SaaS (Software as a Service)

SaaSとはクラウドにあるソフトウェアを利用できるサービスです。アカウントをもっていれば、インターネット経由でどこからでもアクセスすることができ、ソフトウェアのバージョンアップは利用者が行う作業はなく、サービス提供者側で更新を行います。そのため常に最新機能を利用でき、ソフトウェアのバグを放置したままになることもありません。SaaSはサービスを契約し、ユーザアカウントが準備できれば、すぐにサービス利用開始ができます。

2023年12月期 業績予想

売上高	845百万円(前期比2.2%増)
営業利益	25百万円(黒字転換)
最終利益	10百万円(黒字転換)

	<u>2022年</u>	<u>2023年</u>
DXサービス製品群からの売上*1	82百万円	⇒ 141百万円 (70%増)
それ以外からの売上	744百万円	⇒ 704百万円 (5%減)

* 1 建設DXサービス、クラウドデータサービス、Kiwi Tech IoTクラウドサービス、RiskFinderからの関連売上の合計。

パソコン・デジタル 家電向け組み 込みソフトウェア事業

- (パソコン) スマホ連携アプリのさらなるラインナップ拡充 (現在4製品 => 6製品へ)。
- (テレビ) 新機能ブラウザの顧客製品への搭載完了。

建設DXサービス事業

- 採用建設会社数 10件超と採用累積トンネル数 60本の獲得 (2023年3月23日時点:それぞれ8社、34本)
- 「切羽AI評価システムサービス V2」、「コンクリートAI評価サービス」、「動体認識AI解析サービス」に続く、4つ目の建設現場特化型DXサービスのサービスイン。

セキュリティ・ プライバシー ソフトウェア事業

- スマートフォンバックアップサービス「sMedio Cloud Backup」からのサービス収入確保、新規顧客獲得。

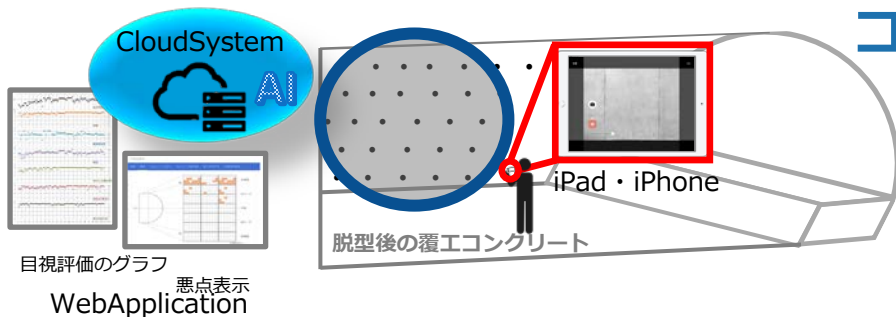
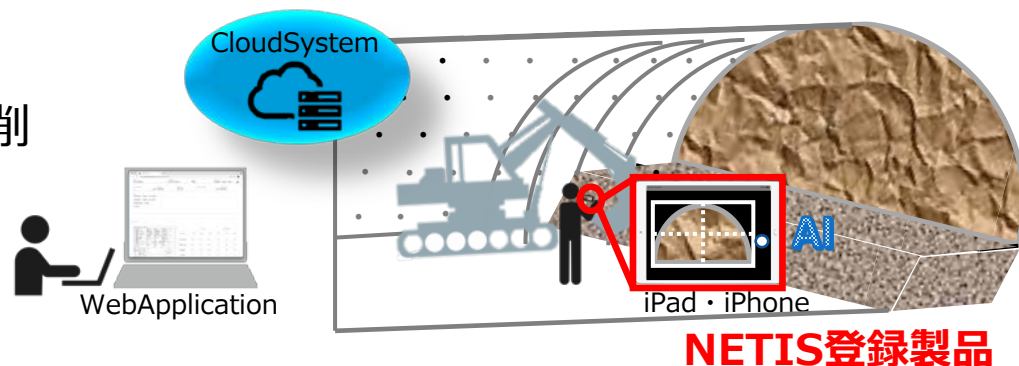
IoTソリューション 事業

- Kiwi Tech社のIoT製品/SaaSサービス関連からの売上計上。

DXサービス製品のご紹介

切羽AI評価システムサービス

トンネル掘削現場での切羽（掘削面）観察評価をAIが支援。

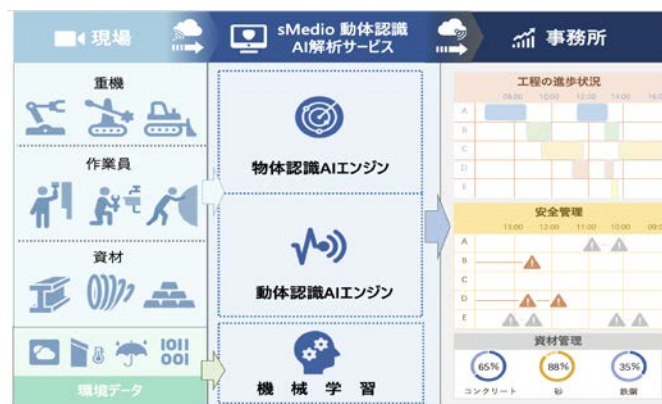


コンクリートAI評価サービス

トンネル覆工コンクリートの表層品質評価をAIが支援。

動体認識AI解析サービス

現場における人間や物体（重機・資材）の存在とその動きをAIで認識し解析を支援。

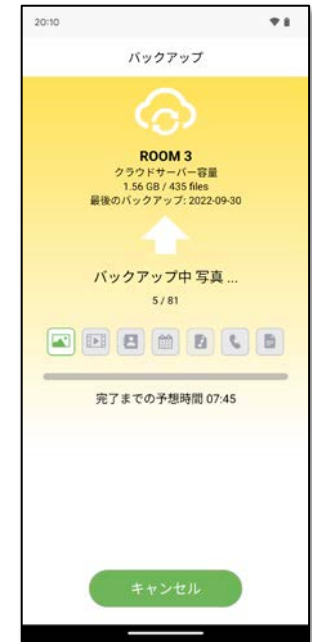
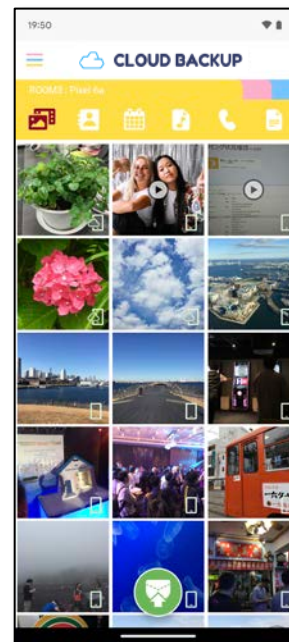


sMedio Cloud Backup

- スマートフォンの個人データを容量無制限で3台までクラウドにバックアップ。
- 高速、セキュア、かつ簡単なバックアップを実現。
- クラウドにバックアップしたデータ閲覧用のオンラインビューアも用意。
- スマートフォン販売事業者、コンシューマ向けサービス事業者などの販売パートナーを通じてサブスク販売。



iPhone/Android™両対応
3台まで追加可



オンラインビューア

- ・ LoRa対応IoT（機器・サーバー・サービス）をワンストップで用途別に提供しています。
- ・ センサー情報は様々な方法でモニタリングを可能とし、レポートの出力が可能です。

サービス

主なサービスと機能

データ保存



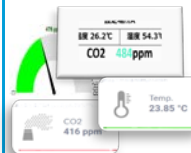
センサー情報はクラウドで一元管理し保存管理

確認ツール



センサー状態を確認するためのアプリ
Web版・モバイル版に対応

可視化機能



最新データの表示、ハードウェアの監視、デバイスの登録や可視化項目の編集機能

レポート機能

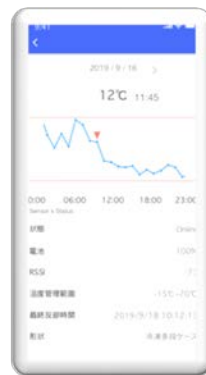


蓄積したセンサーデータをCSV形式や月報形式でダウンロードサービス

Webアプリ



モバイルアプリ



LoRa対応IoT機器



インターネット



LoRaWAN
無線通信

LoRa対応センサー



LoRa対応警報機器



サーバー（DB・Application・AI）

LoRaWAN Network Server (デバイス管理)



- ・ 管理機能
- ・ ストレージ機能

LoRaWAN Application Server (SaaSアプリケーション)



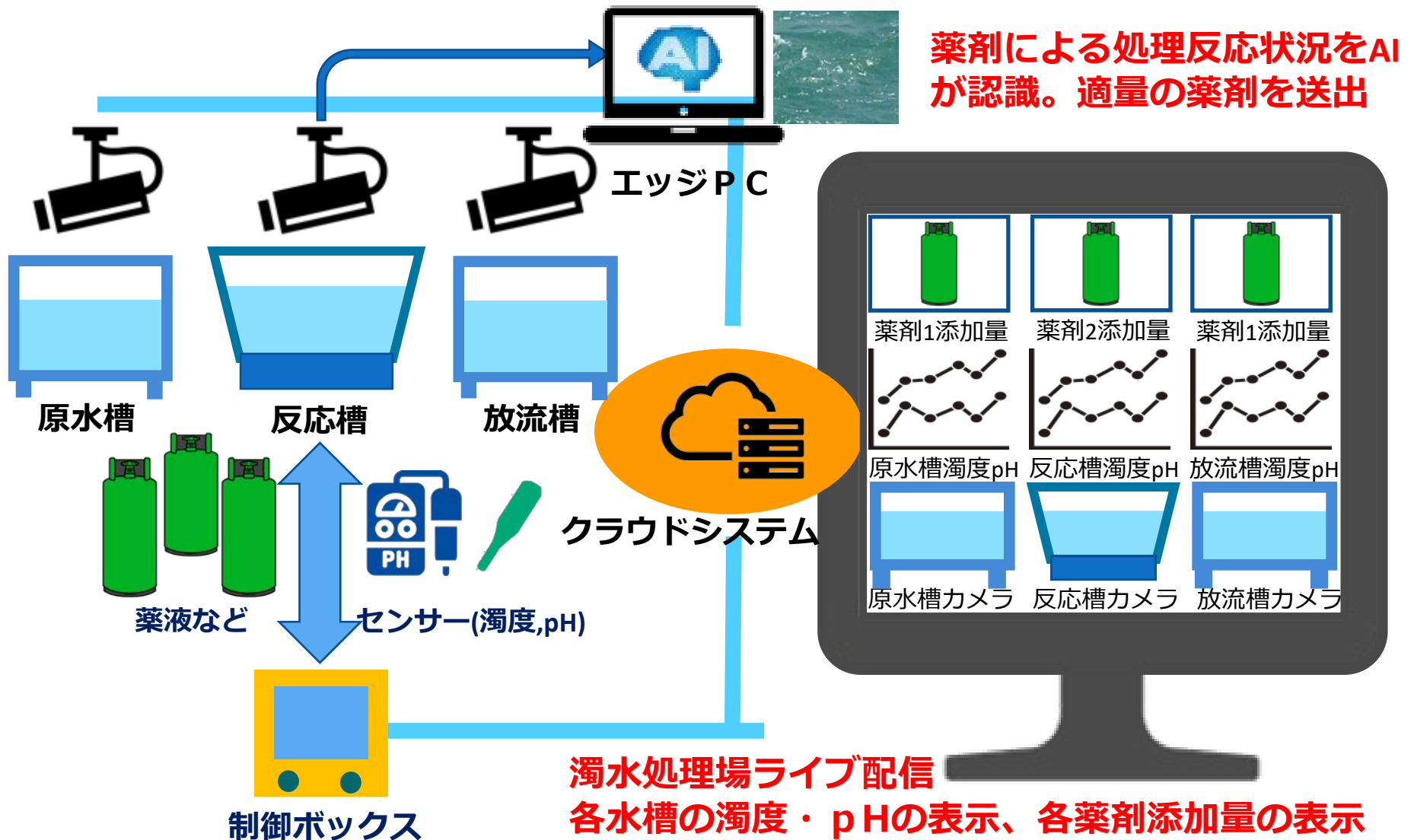
- ・ モニタリング
- ・ 通知
- ・ 監視
- ・ ダッシュボード

Data Mart System (データ活用基盤)



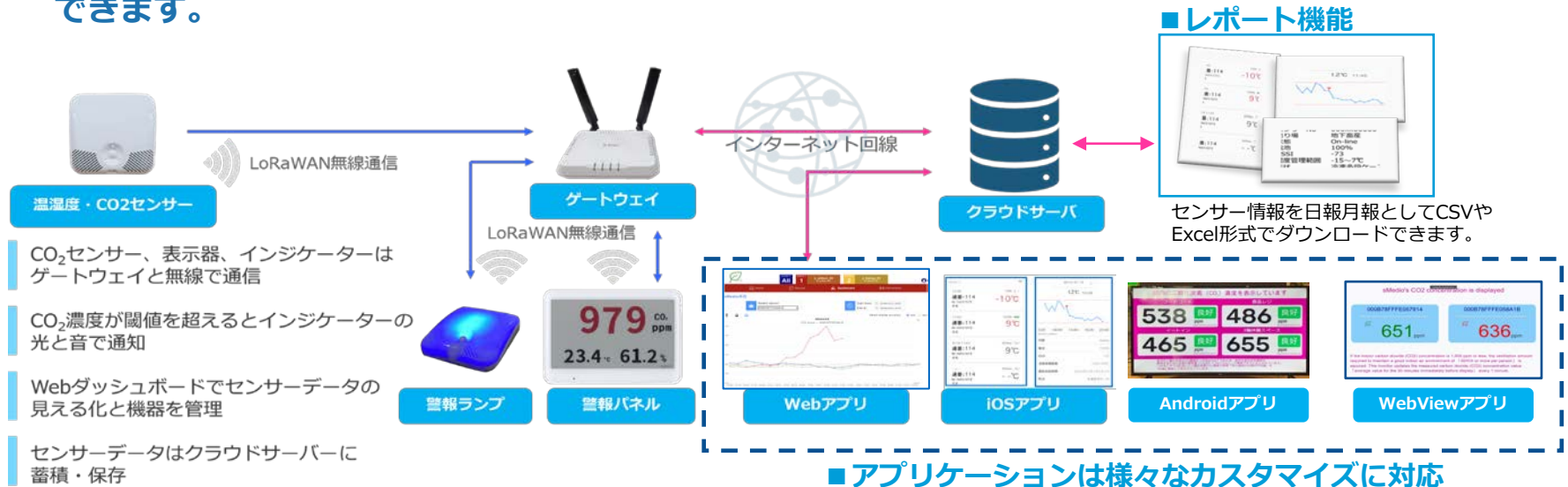
- ・ レポート分析
- ・ 故障予知AI
- ・ 故障検知AI
- ※展開予定

DXサービス製品デモ



Kiwi Tech社 IoTサービス – CO₂濃度モニタリングシステム sMedio

CO₂濃度を計測しモニタリングし見える化する事で密閉空間を効率的に換気し、新型コロナウイルス感染予防対策につなげる事ができます。温度と湿度を一緒に計測する事で空調管理にも役立ちます。パネルや専用表示器やインジケータおよびWebダッシュボードを使って状態を一目で確認する事ができます。



■ 警報ランプの仕組み

CO ₂ 濃 (PPM)	色	アラート音	通知
1000以下		なし	なし
1001~1,500		「ピッピ」と5回。温度が下回るまで2分毎に発報。ボタンでON/OFF設定が可能	「注意報」 現場名： 場所： CO ₂ 濃度が800PPMを超えました。換気を行ってください。
1,501以上		「ピッピ」と5回。温度が下回るまで2分毎に発報。ボタンでON/OFF設定が可能	「警報」 現場名： 場所： CO ₂ 濃度が1,000PPMを超えました。ただちに換気を行ってください。

■ 警報パネルの仕組み

